DNP Report Vol.105

株主通信（証券コード：7912）

［特集］技術の応用・発展による事業展開で新しい価値を創出

TOP MESSAGE

印刷プロセスで
磨いた技術を
応用・発展させて
事業領域を開拓し、
新しい価値を
提供していきます。

代表取締役社長 北島 義斉（よしなり）

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

コロナ禍をはじめ、世の中が大きく変化するなか、私たちは常に、DNPの製品・サービスを、生活者一人ひとりにとって身近であたりまえに存在する価値にしていきたいと考え、「未来のあたりまえをつくる。」ための挑戦を続けています。

社会の課題を解決するとともに、人々の期待に応える新しい価値を開発・提供して、より良い社会、より快適な暮らしをつくり出していくという「ぶれない軸」の上に立って、多様な戦略を柔軟に展開していきます。その実現に向けて、独自の「P&I」（印刷と情報：Printing and Information）の強みを掛け合わせるとともに、多くのパートナーとの連携を深めて、価値創出のスピードを上げていきます。

今回の「DNP Report」では、印刷プロセスの高度化などで培ってきた技術を応用・発展させて、新たな事業領域を開拓していく私たちの取り組みをご紹介します。世界市場でトップシェアを獲得しているリチウムイオン電池用バッテリーパウチのほか、薄型・軽量で伸縮自在なフルカラーのスキンディスプレイの開発、高精細画像処理の技術・ノウハウを活かしたデジタルアーカイブ構築、光の反射による映り込みが少ないフェイスシールドの提供など、DNPならではの強みを活かした具体的な成果を、ぜひご覧ください。
（＊4-5ページの特集参照）

また、こうした幅広い事業展開につながる印刷技術の原点である「活版印刷」について、その技術と魅力を伝える文化施設「市谷の杜 本と活字館」を東京都新宿区の拠点内に開設し、2021年2月に一般公開しました。6ページの「ピックアップニュース」でご紹介しています。

当第3四半期も、高い収益性と市場成長性を見込む注力事業として、「IoT・次世代通信」「データ流通」「環境」「モビリティ」関連のビジネスに取り組み、強い事業ポートフォリオの構築を進めました。また、グループ全体の持続可能な成長を支える経営基盤の強化に努めました。

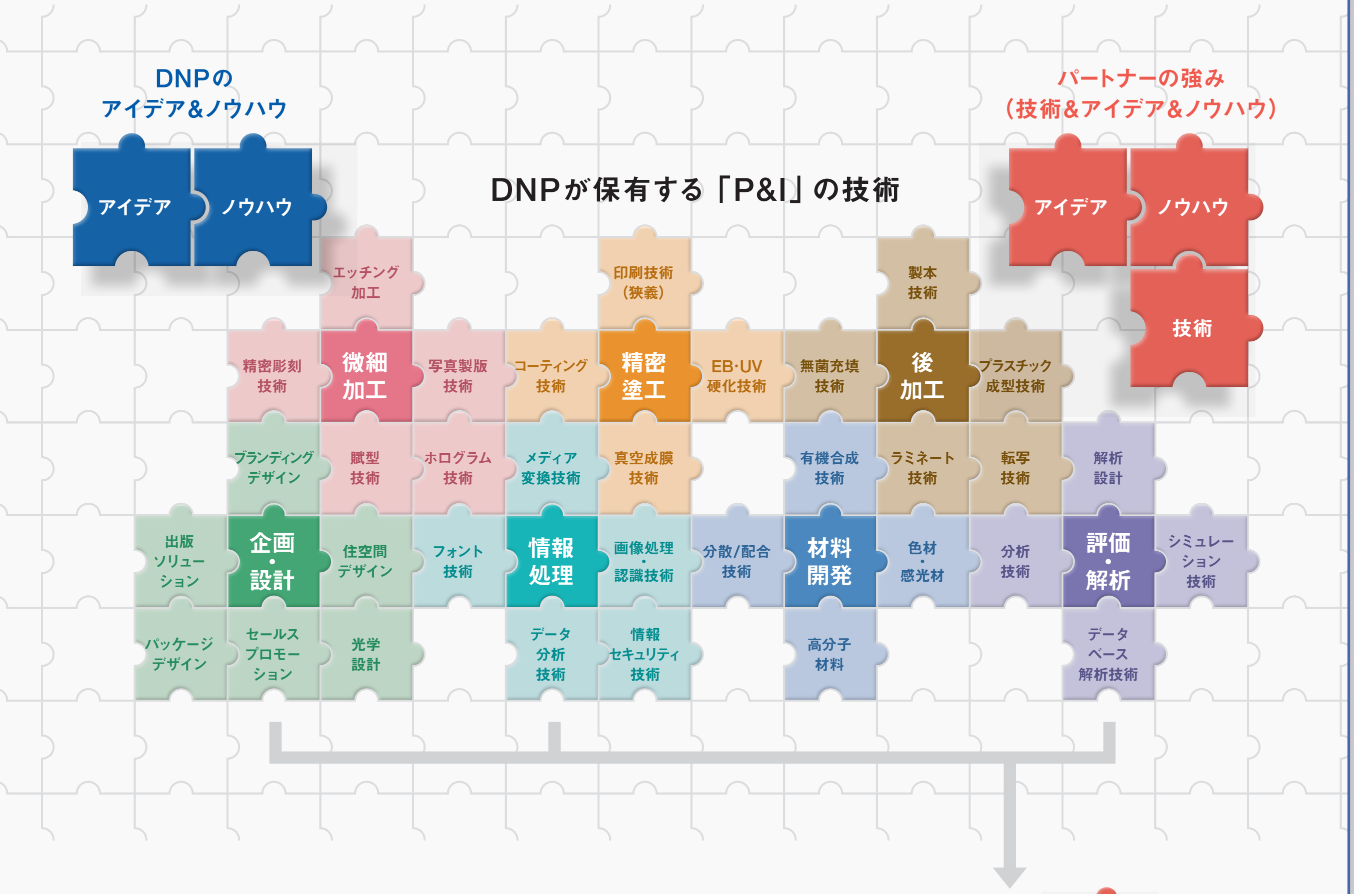
当期間の連結業績は、売上高は前年同期比5.7%減の9,876億円、営業利益は22.7%減の319億円、経常利益は17.3%減の395億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は72.3%減の241億円となりました。

DNPは引き続き、株主の皆様をはじめ、多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、グループの総合力を発揮して、中長期にわたる持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申しあげます。

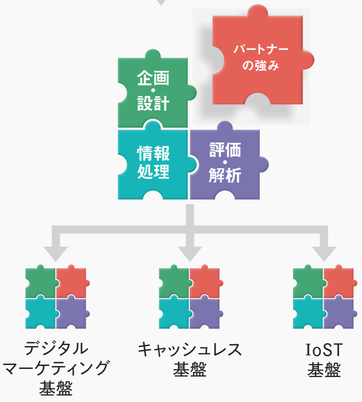
技術&アイデア&ノウハウ等を掛け合わせて新しい価値を創出

多様な印刷プロセスで培ってきた技術群を応用・発展させて、新たな事業領域を開拓してきたDNP。常に最先端に挑み、進化させてきた技術と、営業・企画・生産等の多様なノウハウ、そしてパートナーの強みを掛け合わせて、より良い暮らしや社会の実現に向けたアイデアをベースに、さらに新しい価値を開発、提供していきます。



【技術展開の例】
安心で心地よいコミュニケーションを支えるプラットフォームを構築

DNPの技術群と、パートナーの強みを掛け合わせ、共有経済や循環経済にも欠かせない基盤（プラットフォーム）を構築していきます。データの収集・分析で企業活動の効果を高める「デジタルマーケティング基盤」、安全・安心な決済を支える「キャッシュレス基盤」、あらゆるモノがつながるIoTをセキュアに保つDNP独自の「IoST(Internet of Secure Things）基盤」などにより、多様なコミュニケーションを実現します。



［特集］

技術の応用・発展による事業展開で新しい価値を創出

DNPの強みは、印刷（Printing）と情報（Information）のさまざまな技術を掛け合わせることにあります。
印刷の基本工程から生み出された技術をベースとしながら、常に最先端のものへと磨き続け、
応用・発展させていくことで、多様な事業を創出していきます。

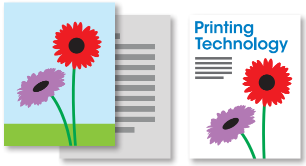
印刷プロセスで培った技術を高度化し、多彩な用途を開拓

印刷の基本工程

（出版印刷や商業印刷等の印刷プロセスの例）

製品納入 → 効果測定 → フィードバック

1. 編集・入稿・レイアウト



めざすアウトプットに適した製造プロセスの企画・設計を行います。大量の文字・静止画・動画・音声等の情報を扱い、データフォーマットや色調を整え、加工や保管も行います。大容量データを安全かつ適切に取り扱うノウハウを高め、各種重要情報の加工・解析、セキュリティ技術へと拡げています。

企画・設計　情報処理

2. 製版・刷版

微細加工

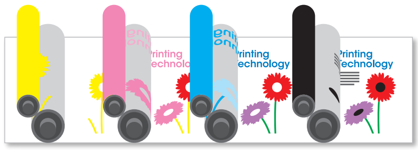
印刷データを色分解してフィルムに出力し（製版）、印刷機にセットする版（刷版）を作成。印刷方式で異なる刷版を、データから直接出力するCTP（Computer to Plate）なども推進しています。

印刷されたインクの網点が肉眼で識別しにくいように、印刷物には微細な加工が施されています。この技術を発展させて、金属やガラス、樹脂などへの微細な加工を可能にしました。エレクトロニクス製品や偽造防止・セキュリティ分野などに応用しています。

3. 印刷

精密塗工

紙だけでなく、フィルムや金属・ガラスなどの基材表面に、単層／多層で、さまざまな特性を持った材料の塗布膜を均質・均一に形成します。光学特性・バリア性・耐熱性など、多様な機能を付与できるため、包装や建材のほか、写真プリント用部材や電池用部材、光学フィルムなどに広く応用されています。



4. 製本・加工

後加工

印刷後の製本など、各種加工の工程から多様な技術が派生しています。使用目的に合わせ、使い勝手のよいカタチに整える技術で、型抜きや組み立てなどの立体加工にも優れています。食品・飲料・日用品等のパッケージや、内容物の無菌充填等のシステム開発、各種製品の検査・計測・解析などにもつながっています。

リチウムイオン電池用バッテリーパウチ

コーティング技術 ／ ラミネート技術 ／ 材料開発 ／ 評価・解析

モバイル機器や車載、蓄電池など、用途が広がるリチウムイオン電池。DNPは精密塗工技術を駆使し、その外装材としてフィルムベースのバッテリーパウチを提供し、電池の薄型化・軽量化に貢献しています。

- 耐電解液ラミネート強度に優れ、長期信頼性・保存性を確保
- 従来の金属缶より軽量で、形状自由度が高い
- 耐内容物性・長期耐久性が必要な電池以外の用途にも展開可能

伸縮エレクトロニクス

印刷技術（狭義） ／ エッチング加工 ／ コーティング技術 ／ ラミネート技術

東京大学・染谷隆夫博士のチームとDNPは、独自の伸縮性ハイブリッド電子実装技術を進化させ、薄型で伸縮自在なフルカラーのスキンディスプレイと駆動・通信回路、電源を一体化した表示デバイスの製造に成功。皮膚に貼るディスプレイに、身体の動きや体調のセンシング情報や、画像メッセージなどを表示できるコミュニケーションシステムです。人に優しいスキンエレクトロニクスとして、全世代のQoL（Quality of Life）の向上などに役立てていきます。

スキンディスプレイのフルカラー化を実現

デジタルアーカイブ

高精細画像処理の技術・ノウハウ等を活かし、美術作品や文化遺産などの文化資源のデジタルアーカイブ構築に取り組んでいます。アーカイブデータの収集・保存・公開に必要な最新技術に対応し、文化と人の最適な接点をめざした総合的なサービスを提供していきます。

データ加工 ／ VR ／ コンテンツ制作 ／ メディア変換技術 ／ ブランディングデザイン ／ インターフェイス設計 ／ AR ／ 著作権保護 ／ 画像処理・認識技術

文化財の保存と公開の両立を目的とした高精細複製「伝匠美®」（でんしょうび）で、障壁画・屏風・掛軸などを再現。金箔上に直接印刷するDNPの特許技術で、金地作品も忠実に再現します。

「伝匠美®」による重文「洛中洛外図屏風 池田本」（林原美術館）

ピックアップニュース

光学設計 ／ コーティング技術 ／ ラミネート技術 ／ プラスチック成型技術

2020年10月6日発表

「DNP超低反射フェイスシールド」*1を発売

表情がわかりやすく、光の反射による不快な気分も解消！

DNPは、独自に発展させたコーティング技術や光制御技術などを活かし、各種ディスプレイの表面の光の映り込みを防止する光学フィルムで世界トップシェア*2を獲得しています。この強みを活かして「DNP超低反射フェイスシールド」を開発し、2020年10月に発売しました。従来品の課題である光の反射による映り込みを大幅に低減することで、着けた人の口元や表情が明確にわかるようにしました。また、装着する人自身の視界も良好になるため、使用時の負担を軽減できます。コロナ禍で困っているろう学校や聴覚障がい者団体などに寄贈し、さまざまな場面でご活用いただいております。「DNP超低反射フェイスシールド」はダイバーシティ・多様性の社会へ貢献する製品です。

今後DNPは、反射防止機能に加え、高い意匠性、曇り防止などの機能を付与したフェイスシールドを開発していきます。

「DNP超低反射フェイスシールド」装着時（左）、市販品（右）

「DNP超低反射フェイスシールド」装着時の視界の様子（左）、市販品（右）

*1 「超低反射」は、2020年10月時点の当社調べによる表現です。
*2 2020年版「高機能コーティングの現状と将来展望」（株式会社富士キメラ総研）ディスプレイ用表面処理フィルム2019 年見込より

「DNP超低反射フェイスシールド」に関するお問い合わせはこちらに ▶▶▶

https://www.dnp.co.jp/biz/solution/products/detail/10158821_1567.html

ピックアップニュース

2021年2月11日一般公開スタート

出版文化を支え続けた市谷工場の地に「市谷の杜 本と活字館」をオープン

市谷の杜 本と活字館
Ichigaya Letterpress Factory

活字の製造から印刷・製本まで、動態展示で紹介する“リアルファクトリー”

DNPは、市谷事業所（東京都新宿区）の再開発の一環として、1926（大正15）年の竣工以来「時計台」の愛称で親しまれてきた旧営業所棟の建物を修復・復元し、印刷の技術と魅力を伝える文化施設「市谷の杜 本と活字館」を2021年2月11日から、一般に向けて公開を開始しました。

この施設は、DNPの事業の原点である活版印刷の職場を一部再現し、文字のデザイン、活字の鋳造から、文選、植字、印刷・製本までのプロセスを展示・紹介する“リアルファクトリー”です。昭和初期の印刷機が稼働する様子や活版職人が作業する姿も動態展示しています。また、来館者に本づくりなどを体験していただく参加型ワークショップなども提供していきます。

昭和21（1946）年頃の時計台

活版印刷機（テキン）

平台式活版印刷機

「市谷の杜 本と活字館」開設の背景

DNPは、前身の1社である「秀英舎」時代の1886（明治19）年、市谷に出版印刷の製造拠点を構えました。この工場はその後、世界最大規模の出版印刷の拠点となり、2010年からの市谷地区再開発によって稼働を停止するまでの間、数多くの雑誌や書籍を製造してきました。活版印刷の作業は2003年に終了しましたが、それ以降も活字や鋳造機、活版印刷機器などを保存してきました。

また、DNPは周辺の出版社や印刷・製本会社とともに、出版文化の発展に尽くしてきました。印刷・製本関連業は新宿区の地場産業の一つとなっています。そうした地域特性も踏まえ、大正15年竣工の建物を復元するとともに、活字や関連機械を公開し、活版印刷文化を未来に残していく施設としました。

DNPは現在、独自の「P&I」（印刷と情報）の強みを掛け合わせ、幅広い分野で事業を展開しています。その基礎にあるのは出版印刷で培ってきた数々の技術です。「市谷の杜 本と活字館」では、DNPの原点とも言える活版印刷について、来館者に理解と親しみを深めていただく企画を展開していきます。

「市谷の杜 本と活字館」の構成と主な企画内容

1F ■活版印刷の各工程を展示。文字（秀英体）のデザイン、活字の型（母型）の彫刻機、活字の鋳造、活字を拾う文選、活字を組む植字、印刷、製本など。

2F ■来館者参加型のワークショップなどを開催。活版印刷機（テキン）、リソグラフ、UVプリンター、レーザーカッターなど、多様な印刷機や加工機を備えている。

■ワークショップで使う紙や雑貨、印刷・製本に関わる道具や書籍を販売。

■印刷や本づくりにまつわる企画展を開催。

文選（上）、植字（下）

「市谷の杜 本と活字館」

東京都新宿区市谷加賀町1-1-1
※DNP市谷加賀町ビルの北東側、陸橋脇にあります

【事前予約制】見学の予約受付はこちら ▶▶▶

https://ichigaya-letterpress.jp/

開館時間／平日11:30〜20:00　土日祝10:00〜18:00
休館日／月・火曜日（祝日の場合開館）・年末年始　入場料／無料
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ウェブサイトでの事前予約制によるご来館受付をいたします。電話および当館受付ではご予約いただけません。また、開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ウェブサイトにてご確認ください。

第3四半期決算のご報告（2020年4月1日～2020年12月31日）

連結業績の概況（単位:億円）

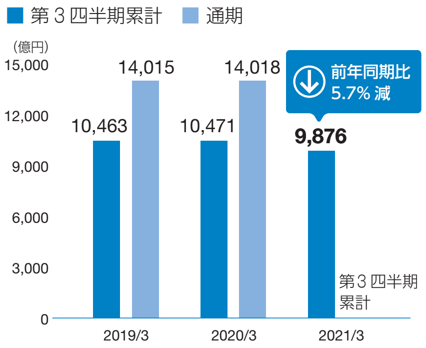
科　目	当第3四半期	前第3四半期
売上高	9,876	10,471
営業利益	319	413
経常利益	395	479
親会社株主に帰属する四半期純利益	241	870

連結業績の予想（単位:億円）

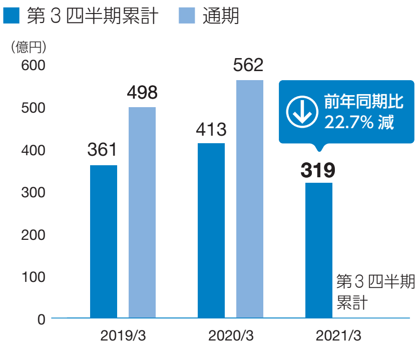
科　目	2021年3月期通期（増減率）
売上高	13,400（▲4.4%）
営業利益	400（▲28.9%）
経常利益	480（▲24.7%）
親会社株主に帰属する当期純利益	210（▲69.8%）

1株当たり当期純利益74円77銭

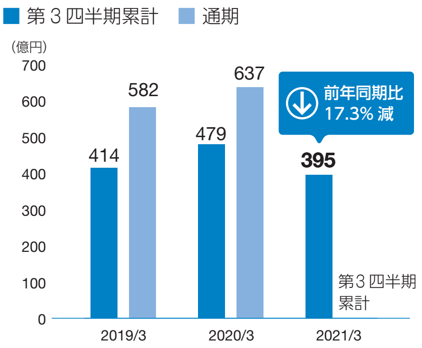
連結売上高



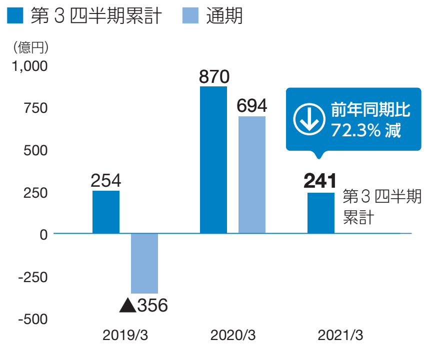
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益（▲純損失）



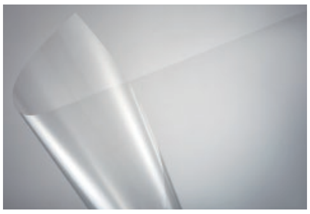
連結貸借対照表（要約）（単位:億円）

科　目	当第3四半期連結会計期間末	前連結会計年度末
資産の部	17,068	17,217
流動資産	7,788	8,840
固定資産	9,279	8,377
負債の部	6,752	7,531
流動負債	3,883	4,806
固定負債	2,868	2,724
純資産の部	10,316	9,685

印刷事業

BPO事業（イメージ）

リチウムイオン電池用バッテリーパウチ


光学フィルム

情報コミュニケーション部門

売上高	5,291億円
前年同期比	7.8%減
営業利益	106億円
前年同期比	49.9%減

IDカードやBPO関連の事業が順調に拡大しましたが、広告需要の減少などの影響により、減収・減益となりました。

生活・産業部門

売上高	2,757億円
前年同期比	6.5%減
営業利益	88億円
前年同期比	10.1%増

業務用包材などが減少したものの、リチウムイオン電池用バッテリーパウチが増加し、減収・増益となりました。

エレクトロニクス部門

売上高	1,459億円
前年同期比	4.4%増
営業利益	274億円
前年同期比	3.9%増

有機ELディスプレイ関連製品などの安定的な増加や事業構造改革の成果により、増収・増益となりました。

飲料事業

飲料

飲料部門

売上高	388億円
前年同期比	6.8%減
営業利益	7億円
前年同期比	56.5%減

「檸檬堂」の販売が増加したものの外出自粛の影響や飲料需要の減少などにより、減収・減益となりました。

DNPのウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。

〈トップページ〉

〈IR情報トップページ〉

●DNPのウェブサイトURL

トップページ→ https://www.dnp.co.jp/

株主通信「DNP Report」はこちら→ https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/

会社情報

商号	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
ウェブサイト	https://www.dnp.co.jp/
創業	1876年(明治 9年) 10月9日
設立年月日	1894年(明治27年) 1月19日
資本金	1,144億6,476万円
発行済株式総数	324,240,346株 (自己株式 43,349,934株を含む)
株主数	27,517名(2020年9月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日　中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (当社のウェブサイト https://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1.住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 証券会社等に口座をお持ちの株主様
  株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 証券会社等に口座を開設されていない株主様(特別口座)

(お問い合わせ先)	みずほ信託銀行	証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
(お手続き窓口)	みずほ信託銀行	本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
	みずほ証券	本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申しあげます。

2.未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

(お支払窓口)	みずほ信託銀行	本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
	みずほ銀行	本店および全国各支店
(取次所)	みずほ証券	本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社　IR・広報本部 IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号　TEL：03-3266-2111(大代表)

2021.3

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。
記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。
※記載されている会社名、製品・サービス名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。